

地域における 公益事業の取り組み

「オール ちばとも」の活動報告

千葉県経営者協議会
プロジェクトチーム

はじめに

- 1938年（昭和13年）社会事業法（社会福祉事業法の前身）
- 1946年（昭和21年）日本国憲法公布
- 1951年（昭和26年）社会福祉事業法公布
- 1990年（平成2年）社会福祉8法 改正
（老人福祉法・児童福祉法・身体障害者
法・精神薄弱者福祉法・母子寡婦福祉
法・老人福祉法・社会福祉事業法・社
会福祉医療事業団法）
- 1997年（平成9年）介護保険法成立
- 2000年（平成12年）社会福祉法 改正

* 住民を主体とする福祉『地域福祉計画』の策定を規定

2000年（平成12年）社会福祉法 改正

主な考え方

- ・ サービス利用者と提供者の対等な関係の確立
- ・ サービスの質と効率性の確保
- ・ 多様な主体の参入推進
- ・ 事業運営の透明性の確保

規制緩和（多様なサービス提供者の参入）
情報開示や評価を努力目標とする
利用者の選択肢を増やす

措置から契約へという福祉制度の理念転換

2016年（平成28年）社会福祉法の改正 公布

“社会福祉法人制度の大改革

- 1 経営組織のあり方の見直し→ガバナンスの強化を図る→
評議委員会の設置
- 2 事業運営の透明性の向上
- 3 財務規定の強化
- 4 地域における公益的な取り組みを実施する責務の規定
- 5 内部留保の明確化と福祉サービスへの再投下

2020年（令和2年）社会福祉法一部 改正成立 「社会福祉連携推進法人制度」

この制度に参加する法人間で資金を貸し借りできるよう規制を緩和
災害時の対応・人材確保、育成などで協働しやすい環境づくり

複数の法人や事業体が相互協力の下、地域での活動基盤を強めていく
こと



しかし改定案では、資金のある法人に小規模法人が吸収？

この制度に加わらない法人が淘汰？

経営困難を理由とした事業譲渡や合併が強制される流れにならないか

営利企業の参入を必ずしも否定しない

自治体の責任は？

- 自治体間の格差が生まれないような政府の財政支援
- 非営利性、公益性をしっかりと担保することが必要
- 小規模社会福祉法人が、単独で事業を継続できる対策の必要性

制度改革により見えてきたもの（私見）

事業者が生じている深刻な困難、矛盾の加速、公費抑制、営利市場化という新自由主義の考え方をイコールフットイング基本に推進されてきた改革が、いかに社会保障の基盤、雇用環境等を劣化させてきたか

今後の福祉制度の在り方や制度を注視

国を動かす力は組織力

全国経営者協議会への参画

千葉県の加入率は39.4%

※最低でも50%の加入を！

全国経営者協議会【全国大会での磯会長の基調報告（ウェブ配信）】

2025年度までの5年間の中期目標として

- ・ 組織率50%を目標に
- ・ 47都道府県の災害支援体制（DWA T）
- ・ 離職率10%以下に

人材の確保、育成、定着の中で離職防止が特に重要

職員が社会貢献を実感できる取り組みを実施していくこと

ここからが本題

1) オールちばとも試行的取り組みについて

<目的>

県内各地域に存在する、福祉法人のノウハウを生かし、高齢・障害・保育等、複数の法人の協働により、地域の実情に即した公益事業を展開してゆくことで、市民への理解促進を実現し**社会福祉法人の存在意義**を明確にしていく

一法人一施設の法人も参画する事で福祉法人に課せられている公益事業の実施につながる

※ 1法人で公益的な取り組みを積極的に実践している例は県内にもいくつかある
が比較的大きな法人による事例が多い

地域にいちがる 社会福祉法人の取り組み



修央会 本部長の石神敏明さん



スタッフのみなさん



「福寿荘」の散歩コース

社会福祉法人修央会

法人本部 / 千葉県船橋市古和館町791-1
お問い合わせ TEL.047-462-2021(代表)
HP <http://shuukai.org>

主な事業

- 特別養護老人ホーム(2)
- 軽費老人ホーム
- ケアプラザセンター



介護施設の大規模修繕工事

●船橋市を拠点に介護福祉事業を展開

修央会は昭和58年、今なお縁が多く残る船橋市古和館町に、市内初となる軽費老人ホーム「福寿荘」を開設。平成8年に「福寿荘」の隣に、特別養護老人ホーム「船橋百寿苑」を開設し、平成25年に大穴北に、特別養護老人ホーム「船橋実寿苑」を開設しました。さらに平成24年には坪井並に、居宅介護や在宅介護を支援する「坪井ケアプラザセンター」を開設し、これらの施設を拠点に、高齢者を対象としたサービスや短期入所など、様々な介護福祉事業を展開しています。

由は、当時はまだ特養船橋百寿苑の建設時、地域住民の一部の方に、特養の開設に反対される方がいたためです。

このままではいけないと考えた石神本部長は、同時期に「福寿荘」で働いていた同僚と何度も話し合い、「これからの社会福祉法人は、地域と密接に協力すべき」という結論に達しました。そして前述した理念を掲げ、それを実現すべく行動を起こしたそうです。

●地域住民とのふれあいを求めて

地域住民の理解を得るには、ふれあいの場が必要。そう考えた石神本部長は、施設内に大きなホールを有する「福寿荘」を会場に、平成22年頃から試行的に地域住民参加型の「地域公開イベント」を開催し、平成26年から本格的に実施していききました。

イベント内容は映画の上映会、体操教室、歌謡コンサート、楽器の演奏会、講演・セミナー等々。驚くべきは実施回数。最も少ない平成26年度でも年28回、最も多かった平成29年度はなんと年47回も開催しました。地域住民への告知はチラシの配布で行っていましたが、最初は手配りでしたが、現在は新聞折り込み、松ヶ丘5,800世帯に毎月配布しています。その効果もあり地域住民の参加者は年々増え続け、平成29年度は年1,078名が参加する、地元の人気イベントに成長。この成功により

修央会は、地域住民と良好な関係を築くことができました。

●入居者が主人公

修央会(福寿荘)は現在、「エンバウメント」の考えのもと、入居者が単に支援の受け手ではなく、自身が本来持っている能力を自覚し十分に発揮・行動できるよう、また、「誰かのためにになりたい」「したい」という気持ちも大切に、積極的に社会参加し入居者が主人公となれるよう、施設内の環境を整え支援を行っています。

具体的な取り組みとして、「入居者が自主的に(清掃など)施設の仕事を手伝う。入居者が入居者の週院に付き添う、買い物代行をする。洗濯を代わりにしてあげるなど、入居者自身が本来持っている力を存分に発揮して、お互いが支え合っています。【本来、これらは職員の仕事であり、他の施設ではタダで提供されています。しかし私は、人がが得意で行う行為を抑制することに、以前から違和感を感

じていました」と石神本部長。今後はこの「エンバウメント」の概念をさらに深掘りし、入居者による子ども食堂の運営や、子どもたちに施設で遊べるなど、地域にも貢献できる仕組みを構築したいとのこと。これが実現できれば、私は嬉しいです」と、熱く語ってくれた石神本部長。その目が見られるのは、そう遠くないかも知れません。

●地域に開かれた法人を目指して

「地域に開かれ、地域に愛され、地域に信頼される法人」これが、修央会の法人理念であり、現在はこの理念の下、地域住民と良好な関係を築いています。

しかし、「約10年前、私が修央会に入職した時は、地域住民との架け橋に消極的でした」と、修央会の法人本部長で、「福寿荘」の副施設長を務める石神敏明さん。その理



「福寿荘」のイベントの様子

「福寿荘」のアウトホームな雰囲気大好きです！

私は千葉県生涯学習センターで健康や福祉について学んだことがあり、その経験を地元で活かしたいと考え、社会福祉協議会に相談したところ福寿荘を紹介され、約1年前からボランティア活動をしています。平日は、前半は認知症予防運動プログラム「ココニサイズ」の指導。後半は私がギターを弾いて唄で合奏しています。ちなみに私は、「おぼろけシスター」(ハビビ隊)の指導もしています。これらの活動を通して、参加者の生活リズムが生まれやすくなっています。



ボランティア活動 石神敏明さん

地域にいちがる 社会福祉法人の取り組み



翡翠会 統括施設長の大塚利可さん



翡翠会 統括施設長の大塚利可さん



社会福祉法人翡翠会

- 主な事業
- 障害者支援施設 ●障害者グループホーム
 - 生活介護事業所(2か所) ●放課後等デイサービス
 - 認知症高齢者グループホーム ●小規模多機能型居宅介護事業所

法人本部 / 千葉県大網白里市大網5347 山鹿みどり学園
お問い合わせ TEL.0475-72-9806
HP <http://hisuikai.or.jp>

●認知症カフェを市との協働事業で開催

社会福祉法人翡翠会は、平成12年に設立され、山鹿地域を中心に障害者福祉施設、高齢者福祉施設を運営しています。3年前、障害者のグループホームを新設する際、地元で反対に遭ったことから、統括施設長の大塚利可さんは「私たち法人の取り組みは、まだまだ地域に浸透していない」と痛感し、何か地域の方々に還元できる事業を立ち上げたいと考えた結果、認知症カフェを市との協働事業という形で始めることになりました。

平成29年度から、小規模多機能型居宅介護事業所「かきつばた」において「カフェかきつばた」を月2回実施。ランチを500円で提供し、地域の誰もが参加できるスタイルで運営しましたが、参加者の数がなかなか伸びません。

●出前講座や子ども食堂で集客効果

そこで「集客のためには仕掛けが必要」と考え、2年前から新たな企画を打ち出しました。そのひとつが「出前講座」で、保健師や医師による健康講座や、認知症サポートー養成講座を「カフェかきつばた」で開催しました。参加者は前年度の2倍に増加したといえます。



翡翠会 統括施設長の大塚利可さん



認知症カフェの様子

また「子ども食堂」を「カフェかきつばた」との合同開催という形で年数回、実施することになりました。できる限り大勢の親子を呼び込もうと広報に力を入れ、市の協力のもと、小学校や公共機関に告知のポスターを掲示しました。そんななか、児童扶養手当の世帯に対して、市がチラシを配布したことで、ひとり親家庭にも様々な情報が届きました。まさに市との協働事業のメリットといえます。

このような広報活動が功を奏し、昨年度4回開催した子ども食堂の参加者は延べ309名でした。(保護者、ボランティアを含む)

規模の大きな子ども食堂を一人法人で運営するのは難しいと感じた大塚統括施設長は、地元の大網ロータリークラブに支援協力を依頼し快諾を得られました。食材の寄付や資金面の援助という形で協力を得ています。

●地域のなかで法人の認知度がアップ

8月10日に開催された子ども食堂取材させていただきました。今回も大網ロータリークラブからお米、野菜、果物などたくさん食材が寄付されました。今日のメニューはオムライスや焼きそばなどで

すが、調理ボランティアの多くは大網ロータリークラブの会員の奥様方です。

今度の子ども食堂では、親子参加型の「認知症サポートー養成講座」が開催されました。受講した小学生の男の子は「認知症のことを全く知らなかったけれど、よくわかった」と言って、うれしそうにオリジナルリングを胸につけました。

おながいっばい食べた後はスライムづくりやダンス、ゲームで盛り上がり、75名の参加者は満足して帰路につきました。認知症カフェや子ども食堂の取り組みの成果としてまず挙げられることが、法人の事業について、地域の認知度や理解が深まったことです。たとえば、開設以来、赤字経営だった小規模多機能型居宅介護事業所が黒字に転換しました。

また、取り組みの様子をホームページやフェイスブックにアップしていますが、就労活動中の方が閲覧して「こんな地域貢献活動をしている法人で働きたい」と興味を持って、応募してくるケースが増えているそうです。

こういっただ目に見える成果が得られたことが、取り組みに誇りを持っている法人の職員のみならずのやりがいや自慢にもつながっています。



翡翠会 統括施設長の大塚利可さん

地域にシッカリ 社会福祉法人の取り組み



特別養護老人ホームあかりの施設長
渡瀬純太さん



社会福祉法人 創誠会

主な事業

- 特別養護老人ホーム(2)
- 居宅介護支援事業所
- デイサービスセンター
- 保育園

法人本部 / 千葉県船橋市二和西6-3-20
お問い合わせ TEL.047-440-4185
HP <http://kamagayahikari.or.jp/>

創誠会は平成14年、千葉県東部の鎌ヶ谷市に設立されました。現在は、本部を船橋市に移し、高齢者福祉施設のほかに保育園も運営。系列法人では幼稚園、認定子ども園も運営しています。

特別養護老人ホームあかりの施設長、渡瀬純太さん(法人理事・事業部長)は法人の理念について、「私たちが目指しているのは、子どもから大人まで、住み慣れた地元で助け合いながら「ともに生きる」ことができる地域の実現です」と話します。

保育園では子育て支援センターを委託し、地域の親子の相談支援を行っているほか、高齢者福祉施設にも地域の方が介護保険の相談に訪れるなど、地域福祉の拠点としての役割も担っています。

●県内でも珍しく、特別養護老人ホーム内の おもちゃ図書館

昨年2月、法人本部のすぐそばに2か所目となる特別養護老人ホーム「あかり」が鎌ヶ谷市に開設されました。同年11月には同じ敷地内に「おもちゃ図書館あかり」がオープン。専用スペースをもつおもちゃ図書館は県内でも珍しく、注目されています。



この場所はおもちゃデニスクラブのコートがあった場所で、おもちゃ図書館はクラブハウスだった建物を活用。清潔で明るい館内に、トランポリンやジャングルジム、鉄道玩具、おもちゃセット、楽器、絵本など、多種多様なおもちゃが揃っています。

「特養を新設するにあたって、地域貢献事業を立ち上げたいと考えていたところ、おもちゃ図書館の存在を知りました。子どもたちが定期的に遊びに来れば、特養のご利用者も喜んでくれるはず。さっそく、子育て経験が豊富な職員が中心になって準備に取りかかりました」

現在は週1回、午後1時30分から4時まで開館。保護者同伴が条件となっていて、毎週3〜5歳くらいの子が利用します。貸出のサービスも実施しており、ほとんどの子どもが気に入ったおもちゃを借りていくそうです。

遊んでいるうちに、初対面の保護者同士、子ども同士が仲良くなるなど、交流の場にもなっています。また、特養の利用者が立ち寄って、子どもたちの遊び姿を見て、眼を留めている光景もみられます。

スタッフは施設事務員4名が交替で勤め、受付や見守りを担っています。

●障害のある子どもと子が ともに遊ぶために!

取材当日、4歳と9歳の子どもといっしょに訪れていた保護者の方にお話を伺いました。「特養に私の祖父が入居しているのですが、ここに来ると、眼を輝かせて喜び、長時間いても飽きません。安全な環境で自由に遊べるのがいいですね」

おもちゃ図書館はもともと障害のある子どものための活動として地まりましたが、現在は障害のある子どもと子が、ともに育ち合う場になっています。

「これまでは健常の子どもさんが利用してはいましたが、近くには放課後デイサービスが開設されたので、ご利用者を伺いました。健常の子どもさんと保護者のみなさんは、障害のある子どもさんとふれあうことがないと思いますので、私たちが関入してサポートしていく必要があります」と渡瀬施設長。

今後おもちゃ図書館活動をきっかけに、地域の子どもが利用できる塾(学習スペース)や老人憩いの家など地域のふれあいの場としてひろげていく計画があるそうです。まさに法人理念である「ともに生きる」が通り、「子どもから大人までがともに生きる地域の実現」に向けて、さらに地域貢献事業が広がっていくことが期待されます。



地域にシッカリ 社会福祉法人の取り組み



大成会 理事長の野村昭也さん



社会福祉法人大成会

主な事業

- 障害児入所施設
- 就労継続支援日型事業所
- 生活介護施設
- 居宅介護ステーション
- 共同生活事業所
- 受託相談支援事業
- 障害児通所支援事業所
- 指定相談支援事業

法人本部 / 成田市大清水206-1 社会福祉法人大成会
お問い合わせ TEL.0476-36-7006
HP <http://www.taiseikai-narita.com/index.html>

●成田市を拠点に知的障がい者支援

大成会は昭和27年、成田市内に知的障がいを持つ子どもたちを受け入れる、入所型施設の不二学園を設立。昭和31年には社会福祉法人に認可され、以後、不二学園の運営をメイン事業としてきました。しかし平成に入った頃から、福祉関連の法改正が相次ぎ、それに準じた形で幅広い年齢層の知的障がい者を支援するために、就労継続支援日型事業所、生活介護施設、共同生活事業所などを開設。現在は15の施設や事業所を運営しています。

大成会が知的障がい者と接する上で、最も大切にしているのは、「それぞれの個性を尊重すること。その人に可能な限り寄り添い、何を望んでいるのか考えながら、支援を行っています」と、大成会の野村哲也理事長。

●自閉症への理解を深めるために

大成会は地域及び社会貢献にも注力し、その一環として行われるのが、今回取材した「自閉症基礎研修」です。当研修は平成19年から年2〜3回開催しています。

知的障がい児・者支援に関する事業を展開している大成会は、これまでの利用者の



みなさんのおゆみの中で、多くの経験と豊富な知識を蓄積しており、その中で自閉症に関する膨大なデータを整理し、関心のある地域住民や、教育・福祉関係者に伝え、自閉症への理解を深め、地域共生社会の実現を目指しています。

第34回目となる今回の参加者は16名(台風15号の影響で、通常の約半数とのこと)で、全員が教育や福祉関連の仕事に就いているとのこと。

研修内容は、午前中が「自閉症スペクトラム障害(ASD)とは?」「行動問題(Challenging Behaviors)について」「構造化について」の基礎講座。講師を務めるのは、日々知的障がい者と接している大成会の職員。その経験に基づいた実践力がある話に、参加者は興味を持って聞き入っていました。

午後からは事例を検討するグループワーク。参加者それぞれが持ち寄った、自閉症に関する問題や疑問を、グループで話し合っ

●職員のボランティア活動を支援

平成23年、大成会の職員が他の福祉関係団体と共に、東日本大震災で被災した高

「自閉症基礎研修」講師3名と参加者

城郭石巻市で、ボランティア活動に参加。それを機に、職員間でボランティア活動への関心が高まり、その熱意に野村理事長が共感。「ボランティア休暇規定」を定め、有給休暇とは別にボランティアのための休暇が取得可能に。以後、職員は東日本大震災で被災した宮城県、福島県、そして千葉県

の旭市など、日本各地で精力的にボランティア活動を行っています。

2019年9月に発生した、台風15号の被災地のひとつである鹿嶋市にも、2人の職員が赴き、瓦礫の片付けなどを行ったそうです。

●社会福祉法人として

社会福祉法人は、本来の事業はもちろんです。それ以外でも地域や社会への貢献に繋がらなれば、多少採算が合わずとも、できることはやるべきです」と、野村理事長。

その言葉どおり、住み慣れた難しい知的障がい者のための、共同生活事業所や居宅介護ステーションの開設。知的障がい者や、その家族からの相談を受ける受託相談事業。受託相談の限、「開けさせない」と判断した人の保護や、緊急時にも利用できる、一時避難場所の開設。そして、発達した「自閉症基礎研修」やボランティア活動等々。

地域や社会のため、精力的に動く大成会の姿勢に、社会福祉法人の在り方を教えられた気がします。



地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み



栄養管理も
ボリュームも満足
500円ランチ
は大人気!



社会福祉法人 金谷温清会

- 主な事業
- 特別養護老人ホーム
 - ホームヘルプサービスセンター
 - ケアハウス
 - 地域包括支援センター
 - デイサービスセンター(2)
 - 放課後児童健全育成事業

法人本部/富津市金谷1912-2 特別養護老人ホーム 金谷の里
お問い合わせ TEL.0439-69-8400
HP <http://onseikai.com>



社会福祉法人金谷温清会 監事 杉本 幸雄

●地域住民と職員がカフェでつながる!

房総半島の南部、海と山に囲まれた金谷地区に平成8年、社会福祉法人金谷温清会が設立されました。特養を始めとする高齢者福祉事業を幅広く展開していますが、地域ニーズにきめ細かく対応しようと、介護保険では対応できないサービスを提供する日常生活支援事業や、福祉有償連立事業(外出支援サービス)などを実施しています。



昨年「富津市内に認知症カフェがなかったので開設してほしい」という市からの要請に応じて「きんこくカフェ」を立ち上げました。認知症の高齢者とその家族はもちろんのこと、地域の誰もが利用できるカフェです。

交通の便が良い、デイサービスきんこくの家で月1回開催。介護に関する悩みや困りごとの相談には、法人所属のケアマネジャーなどの専門職が対応し、認知症ケアや介護予防などのテーマについて、専門職がわかりやすく説明する「三二講話」を毎回企画しています。

という元気な高齢者も数多く訪れます。「いつも介護予防体操の時間に仲間といっしょに参加します。お目当ては、管理栄養士の方がつくる500円ランチ。とてもおいしいのよ」と楽しそうに話す参加者もいました。

「元気な高齢者がここで職員と顔見知りになり、気軽に相談できる関係を築くことも、このカフェの目的の一つです」と金谷温清会の協賛和弘本部長は話します。

●子育て中でも働ける環境づくり

金谷温清会は職員のために、働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいます。たとえば子育て中でも安心して働けるように、地産地消「どんぐりクラブ」を開設しました。営業時間は自動の定時に合わせ、7時半から5時半まで、年中無休です。

「どんぐりクラブ」の子どもたちは特養やデイサービスのイベントに参加して利用者との世代間交流を促していますが、利用者の笑顔が増えるだけでなく、介護職と生き生きと働く親の姿を子どもに見ることができず。

移住者支援活動にも取り組んでいます。この地区は若者に人気が高く、移住者が増加していますが、アルバイトを探している移住者を雇用して生活を支援。週2〜3日程度しか働けないという若者も雇用し、一から介護の仕事を教えています。

●勤務を促して地域に馴染んでいく

移住者支援に取らず、金谷温清会では雇用の幅を広げ「親の介護があるから週2日だけ」が「学校に通っているから1日だけ」という働き方ができます。

こういった職場環境づくりが功を奏し、昨年は10数名の職員を雇用。介護職の退職者が戻ってこられるケースも増えています。

多様な雇用形態を実施するためには、新人を育成する職員の理解が必要です。また長く常勤で働いている職員はそれにあわせて知識を与え、不満が起きないように配慮しているそうです。

最後に社会福祉法人と地域とのかかわりについて、協賛さんへ伺いました。「社会福祉法人とは何か。多くの住民がご存じないと思います。ですから我々は敷居を低くして、地域に馴染んで、社会福祉法人の魅力を伝えていきたい。我々の仕事の楽しさが伝われば、人材も集まると思います」



研究所めぐりクラブで遊ぶ子どもたち



きんこくカフェ

地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み



社会福祉法人 八千代美香会

- 主な事業
- 特別養護老人ホーム(3)
 - 保育園(2)
 - グループホーム(2)
 - 子ども園
 - サービス付き高齢者向け住宅
 - 地域交流プラザ

法人本部/八千代市村上641 特別養護老人ホーム美香苑
お問い合わせ TEL.047-482-8670
HP <http://www.bikou.net/>



八千代美香会 代表取締役 大野 美香

●ブレイム型地域社会をめざそう

昭和63年に設立した社会福祉法人八千代美香会は、八千代市、千葉市若葉区、船橋市で特別養護老人ホームを運営し、八千代市と習志野市で保育園、子ども園を運営しています。高齢者福祉と児童福祉の分野で幅広い事業を展開するなか、平成21年には地域交流プラザ「ブレイム習志野」を開設しました。

この施設は、助知事の安本孝子氏が理想とした「ブレイム型地域社会づくりモデル事業」として、県が所有する習志野市内の土地を活用して整備されました。口り、犬、猫、鶏が力を合わせて生きていくというグリン童话「ブレイムの音楽隊」にちなみ、児童、障がい者、高齢者を含む地域住民が支えあって住み続けられる地域をめざそうという考えが込められています。

運営団体を公募した結果、同法人が選定され、地域住民の幅広いニーズを踏まえた3階建ての施設が完成しました。

●生活圏内の親子も気軽に参加

ブレイム習志野には、同法人が運営するデイサービス、ショートステイ、リハビリスタジオ、居宅介護支援センター、地域包括支援センター、多目的ホールなどのほか、別法人が運営する保育園、市のサービス機関であるヘルスステーション(地域保健活動の拠点)などが入居しています。レストランも併設されたことで、毎日500円ランチを提供。近隣に住む一人暮らしの高齢者を中心に大勢の利用者が訪れます。また、同法人では今年10月から別地区で、「朝カフェ」も始め、ますます地域の思い



習志野の地域で展開するレストラン「ブレイム」



習志野の地域で展開するレストラン「ブレイム」

の場が広がっています。

このレストランは、平成28年から子ども食堂がスタートした。月1回、金曜の夕食を幼児100円、小中学生200円で提供しています。地域の子どもももちろん利用できる形式で、毎回50〜60食が「100円」に先売してしまいます。

「子ども食堂は本来、支援が必要なお子も対象としたサービスですが、あえて開口を広げました。地域の子ももちろん気軽に食事をするなかで、生活に困っている親子も気兼ねなく参加されています」と、ブレイム習志野の副施設長、大野孝子さんは話します。食材については、地元住民から

提供いただくこともあったり、また抱い手についても、いつもランチを食べに来ていただく高齢者などにボランティアとして協力いただいています。

●職員が「やりたいたい」から始まる

ブレイム習志野の地域包括支援センターでは、平成28年から介護予防を目的にした「ブレイムのラジオ体操」を開催しています。施設に隣接した公園で週2回実施し、近隣の高齢者30名ほどが参加していますが、仲間づくりにもつながっているとのこと。法人本部のある八千代市でもラジオ体操の取り組みが始まりました。

法人の総務部長 法人本部長の職員由美子さんは、八千代美香会の公益的 な事業の特色について、トップダウンではなく、現場の職員が「やってみたい」という思いからスタートし、施設長など職員も協力しながらみんなで、形にしていることと指摘。だからこそ職員もモチベーションが高く、長く継続できるのではないのでしょうか。今後の取り組みについて総務常務理事は「当法人には高齢者福祉と児童福祉という2本の柱があるので、子どもと高齢者を結びつけるような公益的 な事業を立ち上げて、地域に貢献できればと考えています」と抱負を語ってくれました。



習志野の地域で展開するレストラン「ブレイム」

地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み



社会福祉法人 孝明会 (千葉市若葉区)

主な事業

- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 居宅介護支援
- 地域包括支援センター

法人本部／千葉市若葉区野呂向736-1 特別養護老人ホーム晶晴園
お問い合わせ TEL 043-228-1711
HP <http://shouseien.bz-service.net/>



理事長の石井俊彦さんと副理事長の山岸彰さん

●近隣の子どもたちと交流に交流

社会福祉法人孝明会は、昭和63年に特別養護老人ホーム晶晴園を開設して以来、30年間に渡って高齢者福祉事業を展開していますが、当初から「地域とともに」を合言葉に地域交流活動に尽力しています。毎年恒例の「納涼祭」には大勢の地域住民が集い、職員とともに踊ったり、飲食しながら交流を深めてきました。また、近隣の保育所や小・中学校の子どもたちとしばしば交流し、お年寄りとの世代間交流活動に取り組んでいます。



大人数にさらって交流の「納涼祭」の様子

●自治会、民生委員、市社協と連携

晶晴園は昨年12月、野呂自治会、民生委員、千葉市社会福祉協議会と連携して、地域住民のために、買い物支援サービスを立ち上げました。毎週木曜日、デイサービスの送迎の空き時間（13時～15時）に、晶晴園の運転手が送迎車を使って、自宅からスーパーまで無料で送り迎えをするサー

ビスです。

野呂町は田舎風景が広がるのどかな地域ですが、近年高齢化が進み、小売店が激減したりするなかで、移動手段がなく、日常の買い物に困難を抱える高齢者が増えています。

そんななか、平成27年に若葉区の別の地域で実施された「買い物支援サービスモデル事業」に晶晴園が参加した際、理事長の石井俊彦さんが「野呂町にも必要だ」と考え、さっそく千葉市社協に相談したと言います。

特に、実際にサービスを実施するには地域との協力が必要です。また車両に同乗する高齢者をサポートする「協力員」も確保しなければなりません。千葉市社協がコーディネート役とな

り、晶晴園と地域住民とが集まって何度も話し合いを重ねました。その結果、運営の詳細が決定。利用者の募集は自治会が行い、申し込みの受付や利用可否の決定は民生委員が担当します。車両に同乗する協力員は、野呂自治会の見守り隊の8人が交替で担うことになりました。見守り隊とは、一人暮らしの高齢者を訪問して安否確認するボランティアです。

●認知しこもり防止や仲間づくりの効果も

最初、利用者は4人でしたが、徐々に増えて現在は8人。そのほとんどが一人暮らしの高齢者女性です。利用者の方にお話を伺うと、「自宅から入所まで歩いて20分以上かかるので、本当に助かります」「宅配野菜や肉を見て選べるのがうれしい」「たくさん買って、荷物が重くなっても自宅まで運んでくださるので安心です」と、全員が感謝の言葉を口にされました。

また、当初の目的は単に買い物支援でしたが、一人暮らしの高齢者の安否確認や認知しこもりの防止につながったり、利用者同士の交流の機会になるなど、さまざまな効果が得られています。「車中のおしゃべりが楽しみ」という方も多いそうです。

社会福祉法人の地域貢献について、副理事長の山岸彰さんは次のように話してくれました。「地域の高齢化が急速に進むなか、高齢者福祉施設を運営する社会福祉法人としてやるべきことはたくさんあると思います。地域のニーズをききとらえて、これからの対応を考えていきたいと思います」



白鷺園内観

地域にひろがる 社会福祉法人の取り組み



社会福祉法人 清郷会 (富里市)

主な事業

- 障害者支援施設(2カ所)
- 障害者通所施設
- 障害者就業労務の多機能型事業所(就労移行・就労継続B)
- 障害者グループホーム(5カ所)
- 特別養護老人ホーム
- 保育所

法人本部／富里市日吉倉1082-3 協和厚生園
お問い合わせ TEL 0476-93-1535
HP <http://www.kiyosatokal.or.jp>



理事長の三橋輝明さんと副理事長の三橋徳雄さん

●障がい者への理解を深めるために

社会福祉法人清郷会は昭和61年、富里市内に障害者支援施設「協和厚生園」を開設して以来、障害者通所施設など、障がいのための福祉施設を増設してきました。また平成6年には市内初の特別養護老人ホーム「九十九荘」を開設し、平成23年には「青空保育園」を開設。現在は富里市の地域福祉の核として、「0歳児から100歳まで」の多様な人を支えています。清郷会は開設当初から地域貢献活動に取り組んできました。「慶初」の障害者支援施設を立ち上げたとき、地元住民の反対運動が起きました。そこでご利用者や地域の方々との交流の機会をつくり、障がい者への理解を深めていこうと考えたのですと、法人理事長の三橋輝明さんは振り返ります。



障がい者への理解を深めるために

育て支援グループ、老人会など、延べ700人ほどの方が参加して、手踊りを楽しんでいます。

また各施設の夏祭り、収穫祭などの行事には地域住民を招待して交流しており、地域のサークルがダンスや歌を披露する場としても活用しています。

●700人の住民が手踊りに参加

清郷会は市内に田畑や果樹園を所有し、米や柚子などの農産物を栽培しているほか、青空保育園でも果物や野菜を栽培しています。それらの収穫物は地域の住民と一緒に収穫したり、「おすそわらひ」したりしています。

特にサツマイモ畑は約3,000坪もあり、障がいの者が中心となって育てていますが、秋の収穫時期になると、近隣の小学校や子

さらに地域の防災にも協力。富里市を始め、近隣の自治体と「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結しました。これは一般の避難所で生活することが困難な高齢者、障がいの者を清郷会の施設で受け入れるための協定です。

施設を地域に開放する取り組みも進めており、緑の芝生が敷き詰められた青空保育園の広い園庭は、市内の児童デイサービスに開放されています。

●交流事業に参加した子どもも法人に入籍

清郷会は地元の人を優先して職員採用を行っています。そのため、地域愛に満ちた職員が多く、地域貢献活動にも積極的に取り組み、地域との交流を楽しんでいます。職員の定着率は高く、昨年度の離職率はわずか4%でした。

清郷会の交流事業に参加した子どもが福祉に心を開き、福祉の仕事に就いた事例も数多くあります。障害者支援施設「十倉厚生園」は長年、近隣の小学校と手踊りや運動会などの交流事業を行っていますが、この小学校の卒業生が清郷会に入籍し、現在、十倉厚生園で働いているそうです。

また、地域貢献事業を継続してきたことで、地域住民にとって障害者福祉施設や高齢者福祉施設への理解が深まり、地域の「社会資本」として捉えられるようになってきたと言います。常務理事の三橋徳雄（さとる）さんは、「今後も清郷会の機能を最大限に生かし、地域とのつながりを深めていきたい」と話してくれました。



障がい者への理解を深めるために



サツマイモ畑



青空保育園

2) モデル事業の方法及び手段

県内を11のブロックに分けた中から本プロジェクトメンバー及び青年部会の会委員のいる地域を先行的にモデルの実践として行う

対象ブロック

- ・東葛北部地区
- ・東葛南部地区
- ・印旛地区
- ・山武地区
- ・君津地区

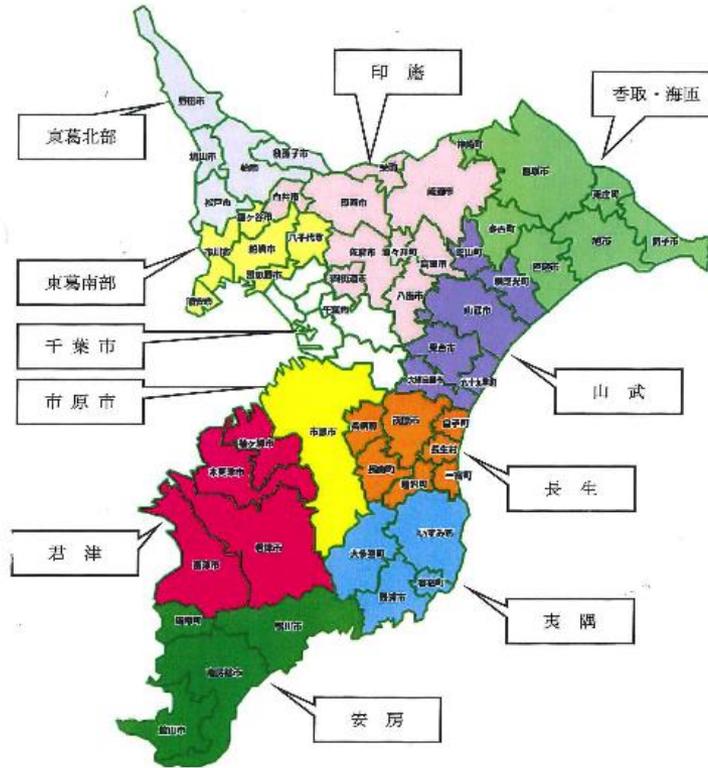
3種別(高齢・障害・保育)の連携が可能

ブロック長の選出(プロジェクトメンバーはオブザーバーとして参画)

千葉県経営者協議会の理解、後押しが必要 ⇨ 県経営協の理解を得、活動の為に予算化されている

SNS等を活用し公益活動の実施状況をタイムリーに発信し、社会福祉法人の取り組み、認知度を高める

千葉県地区区分（案）【11区分】



3) モデル事業としての活動と現状

東葛北部、印旛、山武、君津それぞれのブロック長を選出し、地域の法人に声をかけ参集して頂き、話し合いを重ねる

プロジェクトメンバーから「ちばとも」の主旨を説明した上で

- 地域のニーズは何か
- 何ができるか？
- 共同できる法人をどう集めるか？ etc

その結果

主な試行的活動

障害者の就労支援のための活動

特別支援高校との意見交換、見学

ハローワークとの関わり

障害者労働に結びつけるためのホームページの立ち上げ

子ども食堂、集いの場の企画運営

4) プロジェクトを取り巻く現状と課題

1. 令和元年9月、台風15号が関東地方に上陸し房総半島に甚大な被害を出す

首都圏やその周辺は台風被害に対する弱さが浮き彫りになる

10月には台風19号 雨台風

関東甲信東北地方で、記録的な大雨

実際に台風の被害を受け、被害を受けた法人多数
近くの法人同士の助け合いの姿が現実。事例の報告多数

これを受けてプロジェクトチームでは
「被災地支援活動マニュアル（案）」を作成

千葉県

災害福祉広域支援ネットワーク協議会の立ち上げ（DWA T）

千葉県経営協

経営対策部会においてこれらを受け組織化の検討を始める

2. 令和2年

新型コロナウイルス感染症の拡大
コロナ禍の中でモデル事業がストップ状態
現状のコロナ禍の中で“できることは何か”を模索

- ・ コロナの終息はもとより、各地域の法人参画が望まれる
全県での地域における公益事業の実施、定着を促進して
いく

福祉の理念を大切にし、社会福祉法人を取り巻く現状の中で、法人どうしが手を繋ぎ地域の中で存在価値を高めて行く事が今こそ重要！

人の幸せを構築する喜び、責任、誇り

各法人の皆様のご理解とご協力をお願い致します

ご清聴ありがとうございました